

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4606914号
(P4606914)

(45) 発行日 平成23年1月5日 (2011.1.5)

(24) 登録日 平成22年10月15日 (2010.10.15)

(51) Int. Cl.	F I
A 4 7 C 1/04 (2006.01)	A 4 7 C 1/04
A 6 1 H 35/00 (2006.01)	A 6 1 H 35/00 F
A 4 5 D 19/12 (2006.01)	A 4 5 D 19/12
A 4 5 D 44/02 (2006.01)	A 4 5 D 44/02 A

請求項の数 5 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2005-79825 (P2005-79825)	(73) 特許権者	000149789
(22) 出願日	平成17年3月18日 (2005.3.18)		株式会社大廣製作所
(65) 公開番号	特開2006-255298 (P2006-255298A)		大阪府大阪市平野区加美北4丁目6番32号
(43) 公開日	平成18年9月28日 (2006.9.28)	(74) 代理人	100086346
審査請求日	平成18年12月20日 (2006.12.20)		弁理士 鮫島 武信
		(72) 発明者	清水 寛久
			大阪府大阪市平野区加美北4丁目6番32号株式会社大廣製作所内
		審査官	平瀬 知明

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 フットバス用椅子

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

座部と、当該座部の後部に設けられた背凭れと、座部及び背凭れを支持する基台とを備えた理美容院用椅子において、

洗髪ボウル装置が接続されるものであり、

基台は、上記座部の前方に備えられたフットバス装置を有し、

上記のフットバス装置は、足を乗せることが可能なシンク部と、主給排水装置と、シャワー装置とを備え、シンク部内には、ノズルと、循環用給水口とが設けられ、

洗髪ボウル装置は、頭を乗せることが可能なボウル部と、副給排水装置とを備え、主給排水装置は、給湯源から給湯を受け、給水源から給水を受け、排水源へ排水するものであり、三方弁と、ポンプと、第1導管と、第2導管と、第3導管と、第4導管と、第5導管と、主排水管とを備え、

副給排水装置は、上記主給排水装置から給湯を受ける副給湯管と、当該主給排水装置に対して排水を行う副排水管とを備え、

上記の三方弁とポンプとは、基台内部に設けられ、

上記の第1導管は、基台内部に設けられ、三方弁とシャワー装置のコックとを接続し、

上記の第2導管は、基台内部に設けられ、三方弁とシンク部の給湯口とを接続し、

上記の第5導管は、基台内部に設けられ、給湯源及び給水源を、第1導管へ連絡し、

上記の第3導管は、基台内部に設けられ、シンク部の循環用吸水口と上記ポンプの吸水側とを接続し、

上記の第4導管は、基台内部に設けられ、上記ポンプの排水側とシンク部の上記ノズルと接続し、

上記のボウル部は、洗髪を行うことが可能な浴槽であり、副シャワー装置が備えられ、

上記副給湯管は、一端が副シャワー装置に接続され、

副給湯管の他の一端側は、上記三方弁に接続され、

副給湯管には、副シャワー装置への給湯を止めるコックが設けられたことを特徴とする理美容院用椅子。

【請求項2】

フットバス装置の給排水装置が、上記の主給湯管と主排水管とを備え、

上記主給湯管と主排水管とは、床上に露出した状態に、配管されたものであり、

上記の主給湯管には、給湯と水とを混合することが可能なミキシング装置が設けられ、洗髪ボウル装置の上記の副給湯管と副排水管は、柔軟なホースを備え、当該ホースには、連結カブラが設けられ、

フットバス装置の上記給排水装置には、上記ホースの連結カブラを接続することが可能な被連結カブラが設けられ、

上記両カブラを結合することによって、上記の柔軟なホースを介し、上記洗髪ボウル装置の給排水装置を、上記フットバス装置の給排水装置へ接続することが可能なことを特徴とする請求項1記載の理美容院用椅子。

【請求項3】

上記背凭れは、頭部を支持するヘッドレストを備え、少なくとも当該ヘッドレストは、背凭れから分離し或いは折り畳むことが可能なものであり、

当該ヘッドレストを取り外し或いは折り畳んだ際、上記洗髪ボウル装置の接続により、ヘッドレストに代わり洗髪ボウル部が頭部を支持するものであることを特徴とする請求項1又は2に記載の理美容院用椅子。

【請求項4】

フットバス装置の上記シンク部は、足浴をすることが可能な浴槽であり、当該シンク部内には、上記主排水管7に接続された排水口41bが備えられたことを特徴とする請求項1乃至3の何れかに記載の理美容院用椅子。

【請求項5】

洗髪ボウル装置の上記ボウル部内には排水口が設けられたことを特徴とする請求項1乃至4の何れかに記載の理美容院用椅子。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願発明は、フットバス用椅子に関するものである。

【背景技術】

【0002】

ストレスを緩和する手段として、各方面において、近年リラクゼーション効果を高める工夫が種々なされている。

そのような中、温水による足のマッサージが極めて有効であることが注目され、温水をノズルから噴出させて足のマッサージを行うフットバス装置が提案されている。

例えば、美容院や理髪店において、被施術者は、頭髪に施術される間、長時間椅子に拘束されるものであり、その間、リラクゼーション効果を得ることができれば、効果的であると考えられる。

【0003】

この点について、従来、特許文献1や特許文献2に示す通り、椅子に座して、頭髪のカットなどの施術を受ける被施術者に対して、当該椅子に座したまま、洗髪用ボウルにて、洗髪即ちシャンプーなどの頭部へのトリートメントを施すことが可能な椅子が提案されている。

例えば、上記の特許文献1に見られるものは、椅子が設置される床下に施設された給湯

10

20

30

40

50

管および排水管と、前記椅子の下部に配設され前記給湯管と排水管に接続される給湯パイプおよび排水パイプと、該給湯パイプおよび排水パイプに昇降および起伏が可能な背凭れを有する椅子の下部において接続され、且つ、移動可能なシンク装置と接続するための給湯バルブおよび排水バルブとを具備したことを特徴とする給排水管を具備した椅子である。このような椅子では、洗髪ボールやスピットボールの下部に取付けた給排水バルブを接続することにより、前記ボールと床下の給排水管と接続することができるので、洗髪や嗽を行うことができる。

特許文献2では、移動式の上記洗髪用ボウルに関するものあり、椅子へ接続する点、平行リンクでボールを水平に昇降させる点、椅子とのロック手段を設ける点が示されている。

10

同種のものが、上記特許文献1及び特許文献2のほか、特許文献3にも見られる。この特許文献3に示されたものは、椅子と洗髪台との組み合わせで、床下から椅子へ配管を設け、椅子下部に配管接続部を設ける点、移動シンク装置の下部に配管接続部を設ける点、移動シンク装置側において給湯（給水）の操作が行えるようにした点が示されている。

【0004】

【特許文献1】特許第3301858号公報

【特許文献2】特許第3301859号公報

【特許文献3】特許第3278287号公報

【0005】

このような理美容院用椅子に座して、頭髮のカットなどの施術を受ける被施術者は、足部のマッサージを受けることによって、極めて有効に、前述のリラクゼーション効果を得ることができると考えられる。

20

しかし、上記各先行文献に示された理美容院用椅子において、被施術者が座したまま、洗髪を受けることが可能であるのみで、洗髪中に、上記リラクゼーション効果を得るための、他の手段について検討されたものは皆無である。

一方、現状のフットバス装置自身についても、足部へのマッサージと共に頭部への洗髪やトリートメントといったリラクゼーション効果のある処理を施すことを可能としたものは皆無である。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0006】

そこで、本願発明は、フットバス用椅子において、足部のマッサージやその洗浄と共に洗髪や頭部へのマッサージにより、リラクゼーション効果を得ることが可能な椅子を提供して、上記の課題の解決を図った。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本願第1の発明は、基台2とを備えた理美容院用椅子について、次の構成を備えたものを提供する。

即ち、この理美容院用椅子は、洗髪ボウル装置が接続されるものであり、基台2は、上記座部の前方に備えられたフットバス装置を有し、上記のフットバス装置は、足を乗せることが可能なシンク部と、主給排水装置42と、シャワー装置3とを備え、シンク部内には、ノズル41cと、循環用給水口41dとが設けられ、洗髪ボウル装置は、頭を乗せることが可能なボウル部と、副給排水装置とを備える。主給排水装置42は、給湯源から給湯を受け、給水源から給水を受け、排水源へ排水するものであり、三方弁66と、ポンプ67と、第1導管61と、第2導管62と、第3導管63と、第4導管64と、第5導管65と、主排水管7とを備える。副給排水装置は、上記主給排水装置から給湯を受ける副給湯管92と、当該主給排水装置に対して排水を行う副排水管とを備える。上記の三方弁66とポンプ67とは、基台2内部に設けられている。上記の第1導管61は、基台2内部に設けられ、三方弁66とシャワー装置3のコック33とを接続する。上記の第2導管62は、基台2内部に設けられ、三方弁66とシンク部41の給湯口41aとを接続する。

40

50

上記の第5導管65は、基台2内部に設けられ、給湯源及び給水源を、第1導管61へ連絡する。上記の第3導管63は、基台2内部に設けられ、シンク部41の循環用吸水口41dと上記ポンプ67の吸水側とを接続する。上記の第4導管64は、基台2内部に設けられ、上記ポンプ67の排水側とシンク部41の上記ノズル41cと接続する。上記のボウル部51は、洗髪を行うことが可能な浴槽であり、副シャワー装置9が備えられている。上記副給湯管92は、一端が副シャワー装置9に接続され、副給湯管92の他の一端側は、上記三方弁に接続され、副給湯管92には、副シャワー装置9への給湯を止めるコックが設けられている。

【0008】

本願第2の発明は、上記本願第1の発明にあって、次の構成を採る理美容院用椅子を提供する。

10

即ち、フットバス装置4の給排水装置42が、上記の主給湯管と主排水管とを備える。上記の主給湯管と主排水管とは、床上に露出した状態に、配管されたものであり、上記の主給湯管には、給湯と水とを混合することが可能なミキシング装置が設けられ、

洗髪ボール装置5の上記の副給湯管と副排水管は、柔軟なホースを備え、当該ホースには、連結カプラが設けられ、

フットバス装置4の上記給排水装置42には、上記ホースの連結カプラを接続することが可能な被連結カプラが設けられ、

上記両カプラを結合することによって、上記の柔軟なホースを介し、上記洗髪ボウル装置5の給排水装置51を、上記フットバス装置4の給排水装置42へ接続することが可能なことを特徴とする。

20

【0009】

本願第3の発明は、上記本願第1又は第2の発明にあって、次の構成を採る理美容院用椅子を提供する。

即ち、上記背凭れ12は、頭部を支持するヘッドレスト14を備える。少なくとも当該ヘッドレスト14は、背凭れ12から分離し或いは折り畳むことが可能なものである。当該ヘッドレスト14を取り外し或いは折り畳んだ際、洗髪ボウル装置4の上記接続により、ヘッドレストに代わり洗髪ボウル部が頭部を支持する。

【0010】

本願第4の発明は、上記本願第1乃至第3の何れかの発明にあって、次の構成を採る理美容院用椅子を提供する。

30

即ち、フットバス装置4の上記シンク部41は、足浴をすることが可能な浴槽であり、当該シンク部41内には、上記主排水管7に接続された排水口41bが備えられている。

【0011】

本願第5の発明は、上記本願第1乃至第4の何れかの発明にあって、洗髪ボウル装置5の上記ボウル部51内には排水口が設けられたことを特徴とする理美容院用椅子を提供する。

【発明の効果】

【0012】

本願の上記第1～5発明によって、フットバス用椅子において、椅子に座った被施術者が足部のマッサージや洗浄を受けている間、それと並行して、施術者から洗髪やトリートメント、頭部マッサージを受けることができる。

40

これによって、洗髪による爽快感と共に、被施術者は、足部のマッサージや洗浄により、リラクゼーション効果を、有効に得ることができる。

例えば、本願発明に係るフットバス用椅子を利用することにより、理美容院において、被施術者が理髪やパーマ或いは洗髪を受けている間、これらと並行して、足部のマッサージや洗浄を被施術者に施すことを可能とした。これによって、洗髪による爽快感と共に、被施術者は、足部のマッサージや洗浄により、リラクゼーション効果を、有効に得ることができる。特に、理髪又はパーマから洗髪といった一連の処理により、長時間椅子に拘束されている最中に、足部からリラクゼーション効果を得ることができ、理髪やパーマなど

50

の美容のための施術に続く洗髪中、被施術者にとって、極めて快適な時間を過ごすことができる。

また、頭髮のカットなどの理髪・美容のための施術後、或いは当該施術中に、被施術者が椅子から移動せずに洗髪が行え、また、同時に、足部の洗浄やマッサージが行え、被施術者の足部へのマッサージや洗浄が遮られず、極めて有効に上記のリラクゼーション効果を得ることができる。特に、被背術者が座したまま、洗髪や足部の洗浄やマッサージを受けることができるので、限られた理髪店や美容室のスペースを有効に活用することができる。また、これにてスペースを広く活用できるので、リラクゼーション効果をより高めることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

10

【0013】

以下、図面を参照しつつ、本願発明の好ましい実施の形態について、説明する。図1～図6へ本願発明の一実施の形態を示す。図1は、本願発明に係る理美容院室用椅子の使用状態を示す全体側面図である。図2は、図1に示す椅子の要部斜視図である。図3は、図2の一部切欠要部平面図である。図4は、図2の一部切欠斜視図である。図5は上記本願発明に係るフットバス用椅子の主として給湯についての説明図である。図6は、当該椅子の略全体側面図である。

説明の便宜上、図面において、適宜、Uは上方を、Sは下方を、Fは前方を、Bは後方を示す。

【0014】

20

図1へ示す通り、この椅子は、椅子本体1と、基台2と、移動式の洗髪ボウル装置5とを備える。

以下各部の構成について詳しく説明する。

【0015】

椅子本体1は、図2へ示す通り、被施術者mが腰を下ろす座部11と、当該座部11の後部に設けられた背凭れ12と、座部11の左右に設けられた肘掛13、13とを有する。

背凭れ12には、座部11に対して前後の傾き角度を調節することが可能なリライニング式ものを採用する。また、背凭れ12には被施術者mが頭部置くことが可能なヘッドレスト14が設けられている。被施術者mの肩及び肩より上方と対応する部分（以下背凭れ上部12aと呼ぶ。図2において斑点が付された部分である。）は、背凭れ12の他の部分（以下背凭れ下部12bと呼ぶ。）から分離することが可能である。具体的に説明すると、背凭れ上部12aにはその下部より下方へ突出する雄部12c、12cが設けられ、背凭れ下部12bにはその上部に上記雄部を差し込むことが可能な雌部12d、12dが設けられている。施術者nが被施術者mに対して理髪やパーマなど施術するに際して、図2へ示す通り、背凭れ上部12aは、背凭れ下部12bに取り付けられている。そして、洗髪を行う際、上記の雄部12c、12cを雌部12d、12dから引き抜くことによって、図1へ示す通り、上記の背凭れ上部12aを背凭れ下部12bより取り外すことが可能である。上記のヘッドレスト14は、背凭れ上部12aに設けられており、背凭れ上部12aを外すことによって、当該ヘッドレスト14も背凭れ12から取り除くことができる。背凭れ上部12aを外すことにより、背凭れ12は、洗髪ボウル装置5を背凭れ12の後部に配置した際、背凭れ12に凭れている被施術者mの頭部を当該洗髪ボウル装置5へ円滑に寄せられる高さにまで低くなる。

30

40

この実施の形態において、椅子本体1は、上記の基台2の上部に固定されており、基台2に支持されている。

【0016】

上記の基台2は、床の上に設置され、上記椅子本体1の脚部として、椅子本体1の下方にて椅子本体1を支持すると共に、足を洗浄しマッサージすることが可能なフットバス装置4を備える。

フットバス装置4は、椅子本体1の前方に位置し被施術者mの足を乗せることが可能な

50

シンク部 4 1 と、主給排水装置 4 2 とを備える。

上記のシンク部 4 1 は、足浴をすることが可能な浴槽である。シンク部 4 1 内には、夫々上記主給排水装置 4 2 に接続された、給湯口 4 1 a と、排水口 4 1 b と、水流を足に噴射する複数のノズル 4 1 c … 4 1 c と、循環用吸水口 4 1 d とが設けられている。更に、上記のフットバス装置 4 は、シンク部 4 1 の上記給湯口 4 1 a やノズル 4 1 c … 4 1 c とは別に、上記主給排水装置 4 2 に接続され、シンク部 4 1 内の足に湯を掛けることが可能なシャワー装置 3 を備える。シャワー装置 3 は、シャワーノズル 3 1 と、先端が当該シャワーノズル 3 1 に接続されたホース 3 2 と、ホース 3 2 の後端に設けられたコック 3 3 とを備える。

【0017】

10

上記の主給排水装置 4 2 は、図 5 へ示す通り、主給湯管 6 と、主給水管 6 0 と、主排水管 7 と、ミキシング装置 8 と、三方弁 6 6 と、ポンプ 6 7 と、第 1 導管 6 1 と、第 2 導管 6 2 と、第 3 導管 6 3 と、複数の第 4 導管 6 4 … 6 4 と、第 5 導管 6 5 と、排水用導管 7 1 と、被連結口 5 6 b と、被連結カプラ 9 2 b とを備える。

【0018】

上記の主給湯管 6 は、他に設置された給湯源からこの椅子（の主給排水装置 4 2）に給湯するものであり、基台 2 より外部へ露出する部位を備える。

上記の給水管 6 0 は、他に設置された給水源からこの椅子（の主給排水装置 4 2）に給水するものであり、基台 2 より外部へ露出する部位を備える。

上記の主排水管 7 は、シンク部 4 1 の上記の排水口 4 1 b と接続され、シンク部 4 1 内の湯水を他に設置された排水施設へ排水するものであり、基台 2 より外部へ露出する部位を備える（上記の給湯源、給水源及び排水施設を纏めて給排水源と呼ぶ。また、主給湯管 6、主給水管 6 0 及び主排水管 7 は、直接給排水源に接続されたものとしてもよく、間接的に接続されたものとしてもよい。）。

20

上記のミキシング装置 8 は、基台 2 内部に設けられたものであり、ミキシングバルブ 8 1 を備える。このミキシング装置 8 には、上記の主給湯管 6 及び主給水管 6 0 が接続されている。

上記の三方弁 6 6 とポンプ 6 7 とは、基台 2 内部に設けられている。

【0019】

上記の第 1 導管 6 1 は、基台 2 内部に設けられ、三方弁 6 6 とシャワー装置 3 のコック 3 3 とを接続している。

30

上記の第 2 導管 6 2 は、基台 2 内部に設けられ、三方弁 6 6 とシンク部 4 1 の給湯口 4 1 a とを接続している。

上記の第 3 導管 6 3 は、基台 2 内部に設けられ、シンク部 4 1 の循環用吸水口 4 1 d と上記ポンプ 6 7 （の吸水側）とを接続している。

上記の第 4 導管 6 4 … 6 4 の夫々は、基台 2 内部に設けられ、上記ポンプ 6 7 （の排水側）とシンク部 4 1 の上記ノズル 4 1 c … 4 1 c と接続している。

上記の第 5 導管 6 5 は、基台 2 内部に設けられ、ミキシング装置 8 のミキシングバルブ 8 1 と第 1 導管 6 1 とを連絡している。

上記被連結口 5 6 b は、基台 2 表面に設けられた、ホースの接続口である。

40

排水用導管 7 1 は、基台 2 内部に設けられ、上記の被連結口 5 6 b と上記排水管 7 と接続している。

上記の被連結カプラ 9 2 b は、基台 2 表面に設けられ、上記の三方弁 6 6 と連絡している。

【0020】

図 5 へ示す通り、上記の主給湯管 6 と主給水管 6 0 と主排水管 7 とは、理美容室の壁 W の内部に配管され、壁 W と基部 2 （フットバス装置 4 の主給排水装置 4 2）との間は、夫々床 T 上において、上記の通り外部へ露出した状態に、配管されたものである。

上記のミキシング装置 8 のミキシングバルブ 8 1 を調整することにより、給湯管 6 から送られて来る湯に対して吸水管 6 0 から送られてくる水を適量混合することによって、湯

50

温を所望のものに調整することができる。

【0021】

上記の洗髪ボウル装置5は、図5へ示す通り、ボウル部51と、副給排水装置52と、ボウル部51及び副給排水装置52の支持体53とを備える。尚、図1に示す通り、副給排水装置52及び支持体53は、ケーシング55に覆われているが、図5及び図6において、当該ケーシング55は省略する。

上記の支持体53は、キャスタ54…54を備え、洗髪ボウル装置5を移動可能なものとしている。図示はしないが、キャスタ54…54には、キャスタストッパを設けて、当該キャスタストッパのロックにより、不意に転がって移動しないようにしておくのが好ましい。

10

上記のボウル部51は、洗髪を行うことが可能な浴槽である。ボウル部51の内部には、排水口51aが設けられている。又、洗髪ボウル装置5には、シャワーノズル91を有する副シャワー装置9が備えられている。

上記の副給排水装置52は、柔軟な副排水管56と、一端が副シャワー装置9の上記シャワーノズル91に接続された副給湯管92（シャワーホース）とを備える。

副給湯92と、副排水管56とは、ビニールやポリエチレンといった軟質のプラスチックで形成するのが好ましい。

副排水管56の一端は、上記のボウル部51の排水口51aに接続され、副排水管56の他端には、基台2の上記被連結口56bと連結可能な連結口56aが備えられている。

副給湯管92の端部には、基台2の上記被連結カプラ92bと連結可能な連結カプラ92aが設けられている。

20

上記の被連結カプラ92bには、従来周知のロックボールとスプリングと可動リングとを備えたソケットを採用し、側部に凹部を備えた連結カプラ92aを差し込むことによって、可動リングがスプリングの付勢により連結カプラ92aに嵌合し、ロックボールが上記の凹部に嵌る、ワンタッチ式のものとするのが好ましい（図示はしないが、従来ガスホースの接続などに採用されているカプラと同様の構造ものを採用するのが好ましい）。

図示はしないが、副給湯管92には、シャワーノズル91への給湯を止めるコックが設けられている。このコックは、ボウル部に設けておけば、操作が行い易い。但し、副シャワー装置9の当該コックは、フットバス装置4の三方弁66と被連結カプラ92bとの間に設けて、椅子本体1の背凭れ11にて操作することを可能としてもよい。

30

【0022】

以下、この椅子の使用方法について説明する。

理髪やパーマなどの頭部への被施術者の頭部への施術を行う際には、背凭れ12は、図2へ示す通り、背凭れ上部12aが装着されている。

そして、シャンプーやトリートメント、育毛マッサージを頭髮へ施す際には、図6へ示すように、副排水管56の上記連結口56aを基台2の上記被連結口56bへ連結し、また、副給湯管92の連結カプラ92aを、基台2の上記被接続用カプラ92bへ連結する。

そして、図1へ示す通り、背凭れ上部12aを背凭れ12から取り外し、キャスタを転がして他より洗髪ボウル装置5を移動して背凭れ12の後部に配置する。

40

【0023】

フットバス装置4の使用に際し、（施術者又は被施術者が）三方弁66を操作して、第1導管61と第2導管62とを連絡することにより、主給湯管6にて給排水源より導かれると共にミキシング装置8から第5導管65及び第1導管61内に導入された湯が、第2導管62を通じて、給湯口41からシンク部41内へ放出される。このようにしてシンク部41内に給湯し湯を張ることができる。シンク部41内に一定量の湯が溜まれば、三方弁66を閉じて、第1導管61と第2導管62とを遮断する。そして上記のポンプ67を作動させることによって、循環用吸水口41dからシンク部41内の湯を第3導管63内に吸い込む。吸い込まれた湯は、第4導管64…64を通じて、ノズル41c…41cからシンク部41内に向けて噴射される。被施術者mは、座部11に座したまま、シンク部

50

4 1 内に足を乗せる（入れる）ことによって、上記のノズル 4 1 c … 4 1 c からの湯の噴射により足部へのマッサージを受けることができる。従って、足湯及びこのようなマッサージにより、極めて優れたリラクゼーション効果を得ることができる。また、上記の通りポンプ 6 7 にて循環用吸水口 4 1 d から吸水しノズル 4 1 c … 4 1 c から放水することにより、シンク部 4 1 内の湯を循環させて、繰り返し利用することができる。

更に、上記において、別途、シャワー装置 3 を利用して、足を洗うことができる。シャワー装置 3 の使用に際しては、施術者がコック 3 3 を開くことにより、第 1 導管 6 1 とホース 3 2 とを連絡し、第 1 導管 6 1 からホース 3 2 へ湯を導き、シャワーノズル 3 1 にて、シンク部 4 1 内の足に向けて湯を放出すればよい。シャワーノズル 2 1 は、シンク部 4 1 と分離できるので、施術者が手に持って自由に操作することができる。

10

【0024】

上記のフットバス装置 3 は、洗髪ボウル装置 5 の使用とは別に利用することもできるが、洗髪ボウル装置 5 と共に利用することができ、洗髪又は育毛マッサージと足部の洗浄又はマッサージとを同時に行うことができる。特に、フットバス装置 3 と洗髪ボウル装置 5 とを同時にしようすることによって、洗髪や育毛マッサージと共に足部マッサージによる、リラクゼーションのシナジー（相乗）効果を得ることができる。

洗髪ボウル装置 5 の利用に際しては、前記の通り背凭れ 1 2 の後ろに洗髪ボウル装置 5 をセットして、取り外したヘッドレスト 1 4 に代えてボウル部 5 1 に被施術者 m の頭を置き、施術者が副シャワー装置 9 の上記コックと三方弁 6 6 とを操作することによって、シャワーホース 9 2 と基台 2 の第 1 導管 6 1 とを連絡し、第 1 導管 6 1 から、シャワーホース 9 2 へ給湯を行う。これにて、ボウル部 5 1 内の被施術者の頭髪に向けてシャワーノズル 9 1 より、湯を放水することができる。

20

上記のボウル部 5 1 に溜まった湯は、排水口 5 1 a から副排水管 5 6 を通じて、基台 2 内の排水用導管 7 1 から主排水管 7 に導入される。そして、フットバス装置 4 のシンク部 4 1 からの排水と共に、主排水管 7 より給排水源へ排水される。

【0025】

上記の実施の形態において、主給湯管 6（及び主給水管 6 0）と主排水管 7 の夫々は、壁 W から床 T の上に配設されるものとした。この他、床下に、これらの主給湯管 6（及び主給水管 6 0）と主排水管 7 とを配設するものとしても実施可能である。

また、上記の実施の形態において、フットバス装置 4 の主給排水装置 4 2 が、上記の主給湯管 6（主給水管 6 0）及び主排水管 7 を備えるものであった。この他、洗髪ボウル装置 5 の副給排水装置 5 2 が、上記の主給湯管 6（主給水管 6 0）及び主排水管 7 を備えるものとしても実施可能である。即ち、上記と異なり、給排水源より洗髪ボウル装置 5 に対して給排水が行われ、当該洗髪ボウル装置 5 から間接的にフットバス装置 4 に対して給排水が行われるものとしても実施可能である。

30

上記の実施の形態において、背凭れ上部 1 3 a に設けられたヘッドレスト 1 4 は、背凭れ上部 1 3 a と共に、背凭れ 1 3（背凭れ下部 1 3 b）から取り外すことが可能なものであった。この他、このように背凭れ 1 3 より取り外す（分離する）のではなく、ヒンジなどの周知の折畳手段を介して固定され、背凭れ下部 1 3 b の後面側に折り畳むことが可能なものとしても実施可能である。

40

上述の通り、本願発明に係る椅子は、リラクゼーション効果を得るのに、種々の施設において広く利用に適するものであり、例えば、フィットネスクラブや、ホテル、美容院或いは理髪店などの施設において、運動後や、待ち時間、美容のための施術時にリラクゼーション効果を得るのに適する。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】本願発明の一実施の形態に係るフットバス用椅子の使用状態を示す全体側面図である。

【図 2】上記椅子の要部斜視図である。

【図 3】図 2 に示す椅子の一部切欠要部平面図である。

50

【図４】図２に示す椅子の一部切欠斜視図である。

【図５】上記本願発明に係る椅子の説明図である。

【図６】上記椅子の略全体側面図である。

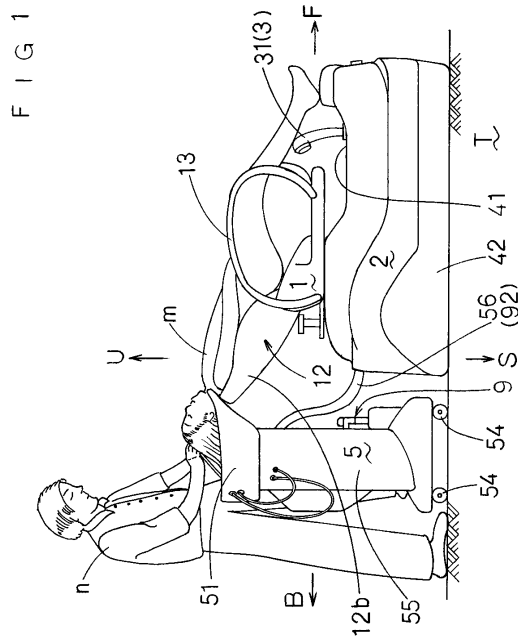
【符号の説明】

【００２７】

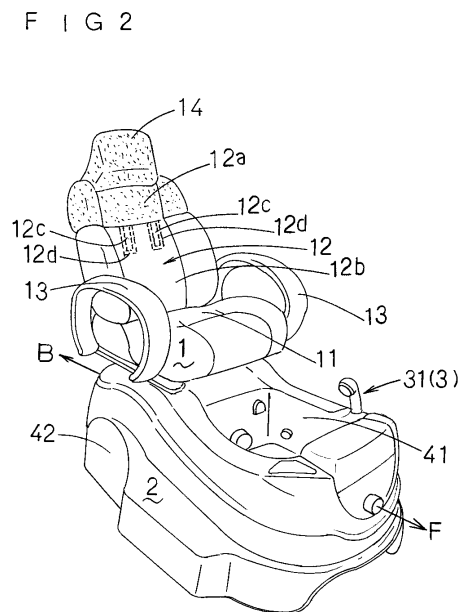
- １ 椅子本体
- ２ 基台
- ４ フットバス装置
- ５ 洗髪ボウル装置
- １１ 座部
- １２ 背凭れ部
- １４ ヘッドレスト
- ４１ シンク部
- ４２ 給排水装置
- ５１ ボウル部
- ５２ 給排水装置

10

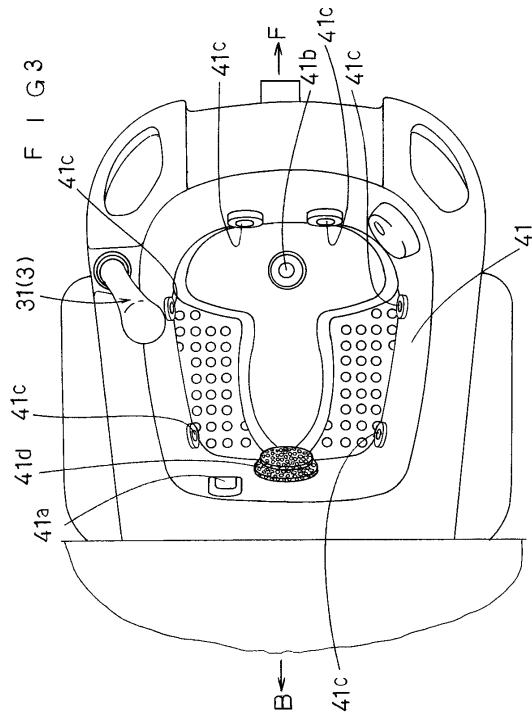
【図１】



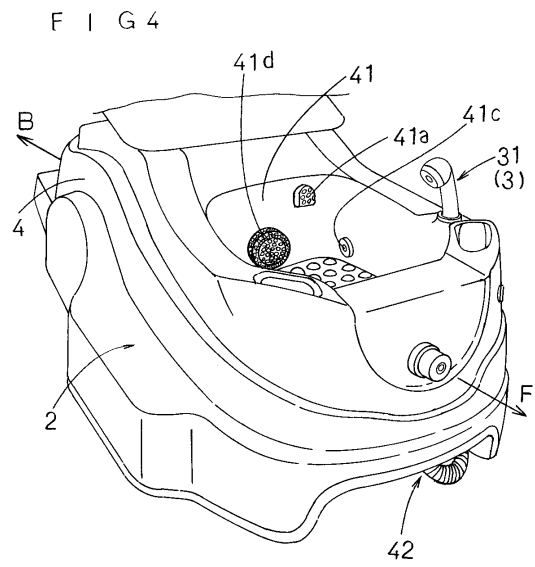
【図２】



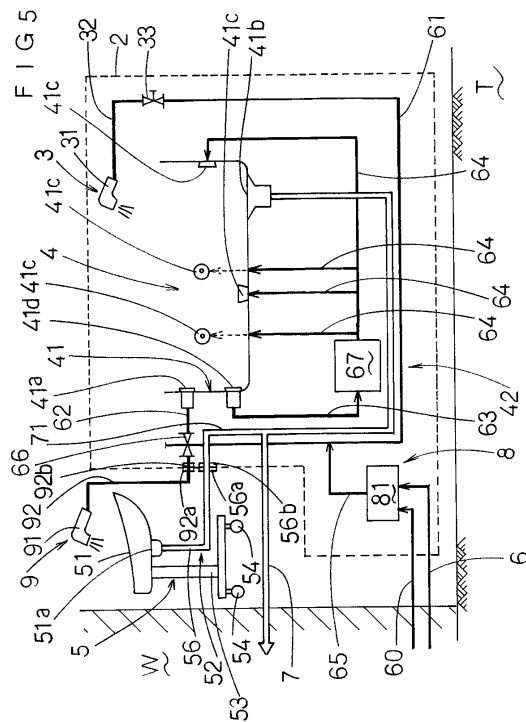
【図 3】



【図 4】

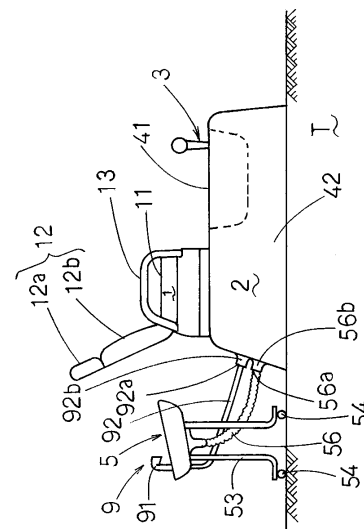


【図 5】



【図 6】

FIG 6



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2001-299862 (JP, A)
特開2004-261475 (JP, A)
特開平11-197204 (JP, A)
特開昭58-089266 (JP, A)
特許第3301858 (JP, B2)
特開2003-111613 (JP, A)
登録実用新案第3080523 (JP, U)
実開昭63-179845 (JP, U)
特開2003-180440 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A47C 1/04
A61H 35/00